京大と日本数学会が第1回「高木レクチャー」

小島日本数学会理事長

リオンス教授

スメイル教授

ブロック教授

日本数学会と京都大学数理解析研究所の共催による第一回「高木レクチャー」が、このほど二日間、錦秋の京都で開催された。

「高木レクチャー」は明治・大正・昭和期の数学者、高木貞治（一八七五～一九六〇）の名を冠したもの。数学者の名前を冠した定期的な講演会は、わが国初の試みで、今年三月に日本数学会が創設した。

毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、気概に満ちた研究総説講演を若手研究者・大学院生を含む専門分野を超えた数学者が聴くことにより、創造のインスピレーションを引き起こし、新たな数学の発展に寄与することを目的としている。

記念すべき初開催となった今回は、スメイル教授（豊田工大シカゴ校・シカゴ大学、一九六六年フィールズ賞受賞）、リオンス教授（コレージュ・ド・フランス、一九九四年フィールズ賞受賞）、ヴォワザン教授（CNRS）、ブロック教授（シカゴ大学）の著名研究者四名による二日間の連続講演が行われ、全国から参加した約百四十名の研究者が熱心に聴講した。

当日は、講演予稿が無料配布された。各講演をもとにした研究総説論文は、日本数学会の欧文学術誌「JJM（日本数学誌）」に厳正な査読を経て掲載される予定。第二回は来年五月末、東大で開催されることになっている。

熱心な質問があり、有意義な懇談となった。タンティラッタナフォン副委員長ら両機関関係者

□奈良女大□女性研究者養成・支援講演会を開催

奈良女子大学では十二月三日、記念館（重要文化財）二階講堂で、学生、教職員、学外研究者及び市民を対象として、女性研究者養成・支援講演会「女性研究者を育てる教育環境デザイン―女子大学における課題と展望―」を開催した。

この講演会は、同大で女性研究者の育成あるいは支援のために現在取り組んでいる二つの事業プログラム（十七年度採択『「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成』、十八年度採択『女性研究者支援モデル育成事業「生涯にわたる女性研究者共助システムの構築」』）が中心となって開催したもの。

当日は二百名を超える参加者を得て、久米健次学長からの主催者挨拶の後、井上裕正副学長による司会進行で、内閣府男女共同参画局長の板東久美子氏、お茶の水女子大学副学長の羽入佐和子氏による講演後、今井範子大学院人間文化研究科教授（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ取組実施担当者・責任者）をコーディネーターとして、活発な意見交換が行われ、富崎松代理学部教授（女性研究者支援モデル育成事業担当者）の閉会挨拶で締めくくられた。

ほぼ満席となった会場からは、女性研究者の育成あるいは支援を取り巻く現状や課題に対する参加者の関心の高さがうかがえ、今後、奈女大が、国立の女子大学として、女性研究者輩出の役割を果たし、女子大学の可能性を探っていくことの必要性を再確認する機会となったようである。

左から今井教授、板東氏、羽入氏

熱心に聞き入る参加者

主催者挨拶を行う久米学長